

## 緊急対応教職員用マニュアル

平日夜間(夜 8:00～朝 8:00)・休日(土・日・祝日)に震度 6 以上の地震があった場合、または研究科長より指示(メールまたは電話にて)があった場合参集してください。

### 1. 任務開始

- (1) 1号館正面玄関の西棟の自動ドアまたは化学館側の扉より入館してください。
- (2) 理学部防災センター(理学部1号館西棟1階)に出勤後、緊急対応教職員名簿の所定欄に出勤時間をご記入ください。
- (3) 総括担当者(あらかじめ選任)が来るまで、少なくとも1名は防災センターに残り、連絡を受ける等、情報共有ができるようにしてください。
- (4) 必要な資機材<sup>\*1</sup>を持参し、見回り対応の建物または指定避難場所に向かってください。行き先をホワイトボードにご記入ください。

\*1 ヘルメット 通信機器(携帯電話等) マスターキー レインコート 拡声器  
手提げビニールバッグ(軍手、懐中電灯(電池入れる)、マスク、ぞうきん、建物別クリップボード(本紙、連絡先、指定避難場所図、報告フォーマット・ハザードマップ)入り)

### 2. 現地での任務

#### ①負傷者の情報収集・応急手当

- (1) 避難場所や建物出口付近にいる避難者数を確認するとともに、避難者より建物内外の負傷者情報を収集し、「安否確認報告フォーマット」に記入してください。
- (2) 負傷者が発見された場合や、必要な物品が生じた場合は、携帯電話等または防災センターに戻り、総括担当者に連絡してください。
- (3) 可能な範囲で負傷者への応急手当※を行ってください。
- (4) 夜間など必要に応じ避難者に毛布等※を配布ください。

建物周辺見回り対応例	
物理・素粒子・光子	1号館
生物科学	2号館
生物化学	3号館
化学	化学各館・4号館・通信機械室
遺伝子・情報	7号館
地惑・天文・原子核	指定避難場所(安田講堂・三四郎池横)

#### ②二次災害防止に向けた安全防護措置

- (1) 避難場所周辺や建物周辺を見回り、建物付帯設備の落下など危険な場所がないか確認してください。また、避難者より建物内の情報を収集し、「被害状況報告フォーマット」に記入してください。
- (2) 危険な場所があればカラーコーンやロープ※を用いて人が立ち入らないようにしてください。

※応急手当の道具、毛布、カラーコーン等は防災センターと協力し倉庫より出してください。

### 3. 任務終了

- (1) 理学部防災センターに戻り、総括担当者に上記フォーマットを提出するとともに口頭で報告してください。
- (2) 理学系災害対策本部員<sup>\*2</sup>または専攻(号館)災害対策部の指揮班員<sup>\*3</sup>が出勤していれば、情報を引き継ぎ自身の任務を完了してください。学内に残れる者は引き続き対応にあたってください。
- (3) 退勤時は緊急対応教職員名簿の所定欄に退勤時間をご記入ください。

\*2 研究科長、副研究科長、事務部長、課長、環境安全管理室(専任)、管理業務担当

\*3 専攻長、専攻事務室係長など